

伊良子清白の旧宅を移築します!



現在、大台町にある旧宅。
2008年3月19日に国指定登録有形文化財
(建造物)になりました。



小浜町にある旧宅跡

概要

施設概要 木造2階建、棧瓦葺、寄棟造
年代 大正初期

ほぼ中央に玄関、3畳間の待合室、階段があり、左側に6畳間と台所、右側に受付兼事務所、診察室、書斎、2階部分は8畳間が2つある。当時の地方医の小規模な住宅兼診療所建築の好事例。伊良子清白が医師として大正11年から昭和20年まで居住した。

医師として人びとのために
22年間、小浜町で暮らしまし
るために引越越すまでの
後、太平洋戦争の戦禍を免れ
町、太平洋戦争の戦禍を免れ
るために引越越すまでの
22年間、小浜町で暮らしまし
た。

Q2 清白と鳥羽とは、 どんな関係なの?

A 清白は、医師として各地
を転々としていましたが、大
正11年、45歳のときに、小浜
町の村医として迎えられ、以
後、太平洋戦争の戦禍を免れ
るために引越越すまでの
22年間、小浜町で暮らしまし
た。

Q1 伊良子清白って!?

A 伊良子清白(本名・暉造)
は、鳥取県生まれで、明治か
ら昭和初期にかけて活躍した
詩人です。また、医師でもあ
りました。

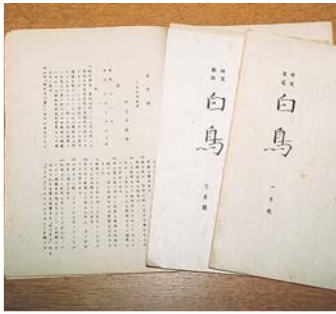
市では、歴史・文化を生かしたまちづくりを進めており、
現在、多気郡大台町にある、伊良子清白の住んでいた家を
移築する事業を進めています。
移築後の建物をどのように活用・運用していくのかとい
うことを検討するため、市内の観光関係者、地元の自治会
長などからなる「委員会」を組織しました。この委員会
で計画を協議し、平成20年度に移築を行う予定です。
今回は、鳥羽ゆかりの詩人「伊良子清白」と旧宅の移築
事業について紹介します。

教育委員会生涯学習課 ☎ 1268



小浜町にあったときの旧宅

尽くす一方、鳥羽の地を愛し、
宮瀬規矩(岩田準一の兄)が
主宰した歌誌「白鳥」の選者
となり、自らも短歌を発表す
るなど、鳥羽の文学活動にも
大きく貢献しました。



選者も務め、自らも短歌を発表した歌誌「白鳥」

Q3 教科書に載っていないし…。清白って有名な詩人なの？

A 清白は、今でいう「職人肌」の詩人であったため、文壇の表舞台に立つことが少なく、生涯一冊だけしか詩集を出しませんでした。

そのためか、教科書には載っていませんし、一般のかたには、なかなか知られる機会が少ないのも事実です。

しかし、詩をされているかたには、極めて有名な人です。清白の詩集「孔雀船」は、当時はほとんど反響を呼ぶことはありませんでしたが、後の詩人たちから高い評価を受け、「明治の七大詩人」と称されるまでになりました。

また、一般のかたにもよく知られている北原白秋や与謝野鉄幹なども親交があり、特に白秋は、清白を訪ねて小浜町まで足を運んでいます。近年、清白の詩に魅せられ

た研究者によって「伊良子清白全集」という詩集が刊行されたり、小泉今日子主演のドラマのせりふで、清白の詩が登場するなど、再び注目を浴びています。

Q4 旧宅を移築するの？ 現在、建物はどこにあるの？

A 小浜町にあった旧宅は、取り壊される予定でしたが、それを惜しむかた（故人）が建物を譲り受け、自費で大台町に移築しました。

現在は、そのかたの親族が旧宅を管理していますが、市に寄付の打診があり、市が譲り受けて移築することになりました。

Q5 どこに移築するの？

A これまで10か所ほど候補地を選んで検討してきましたが、鳥羽駅近くのマリンパーク内の赤福の裏に移築することになりました。



生涯一冊の詩集「孔雀船」

Q6 その移築場所じゃ周りの建物と合わないんじゃない？

A レンガ造りの洋風の公園の景観に浮いてしまわないよう、生け垣や塀をつくるなど十分配慮して整備します。

Q7 移築には、費用がたくさんかかるんじゃないの？

A 当然、移築には多くの費用がかかりますが、まちづくりに交付金事業など国や県の補助金を利用して、市の負担を軽減していくようにします。

Q8 本当に多くの費用をかけて移築する必要はあるの？

A ズバリ！あります！現在、市街地部分は妙慶川周辺の整備を進めており、より多くの観光客のかたに散策してもらえようなまちづくりを



移築先のマリンパーク

目指しています。また、鳥羽二丁目の大里には「鳥羽みなとまち文学館」という江戸川乱歩や岩田準一にまつわる資料館があり、旧宅の移築はマリ

ンパークから文学館へ、という周遊ルートをつくり、鳥羽の文学散歩の新たな観光スポットとして、人の流れを市街地側に引き込むための起点としての役割を担います。

Q9 移築後は、どのように活用するの？

A 清白に関する展示施設としてはもちろんですが、観光客のかたに見てもらうだけでなく、2階の和室などは地元集会所や詩の講座といった貸間として利用するなど、地域の交流施設として活用できるようにしていく計画です。



小浜町にある代表作「安乗の稚児」の詩碑

壊すことは簡単ですが…



市文化財専門員 豊田 祥三

伊良子清白という名前は聞いたことがあるけど、ピンとこないかたのほうが多いかもしれないかもしれません。清白は、明治の終わりから昭和の初めにかけて活躍した人で、一般的な知名度はあまりありませんが、詩の世界では大変有名な人です。

現在、多気郡大台町にある清白の旧宅は、市が譲り受けなければ取り壊される運命にあります。歴史・文化を生かしたまちづくりを進めている市では、旧宅を譲り受けて移築することによって、観光施設・生涯学習の場というだけでなく、鳥羽ゆかりの伊良子清白という詩人を再評価する拠点となる施設にしたいと考えています。

壊すのは簡単ですが、壊されたものは二度と元には戻りません。移築について、みなさんのご理解とご協力をお願いします。